

品川歴史館特別展図録『江戸の名僧 澤庵宗彭』正誤表
以下の誤字・脱字がありました。訂正してお詫び致します。

頁	該当箇所	誤	正
6	図版No. 8 釈文	禪林未必 <u>取</u> 紅白	禪林未必 <u>且</u> 紅白
8	図版No. 11 釈文	与●（耳に思）空烟 <u>己</u> 未来	与●（耳に思）空烟 <u>已</u> 未来
8	図版No. 12 釈文	怒面、 <u>露</u> 然和気、 慈悲 <u>俊</u> 乎霜	怒面、 <u>靄</u> 然和気、 慈悲 <u>峻</u> 乎霜
8	図版No. 12 釈文	寛永廿一甲申小春日	寛永廿一甲申 小春日 澤庵叟（印）「宗彭」（印）「澤庵」
12	図版No. 21	宗鐘寺内	宗鏡寺内
16	図版No. 34	濟 <u>宇</u> 大徳寺派の寺であり、この <u>禪</u> 庭は	濟宗大徳寺派の寺であり、この <u>禪</u> 庭は
17	6行目	この後、大徳寺塔頭大仙院に入る <u>か</u> 、	この後、大徳寺塔頭大仙院に入る <u>が</u> 、
19	5行目	利休や遠州好みの <u>蘇</u> 室が	利休や遠州好みの <u>茶</u> 室が
19	大徳寺略図	聚光院の下の「鐘楼」	「鐘楼」削除
20	図版No. 48	大徳・妙心諸法度抗弁書 <u>稿</u> 本	大徳・妙心諸法度抗弁書 <u>草</u> 案
27	6行目	不破不 <u>倉</u> 不奢	不破不 <u>食</u> 不奢
30	8行目	寛永十三年（一六 <u>二</u> 六）	寛永十三年（一六 <u>三</u> 六）
33	10行目	太刀を <u>愛</u> 流して、	太刀を <u>受</u> 流して、
33	13行目	欠け <u>串</u> 間敷候。	欠け <u>串</u> 間敷候。
33	14行目	太刀をば <u>愛</u> 流すべけれども、	太刀をば <u>受</u> 流すべけれども、
33	23行目	寛永十二年（一六 <u>四</u> 三）	寛永十二年（一六 <u>三</u> 五）
34	図版No. 121 釈文	小者持不 <u>用</u> 、同宿持不 <u>用</u> 、弟子持不 <u>用</u> 、小僧一人持不 <u>用</u> 、小生一人持不 <u>用</u> 、天地之間、身一にて候。何として官家徘徊成可申候や。思召やられ候	小者持不 <u>申</u> 、同宿持不 <u>申</u> 、弟子持不 <u>申</u> 、小僧一人持不 <u>申</u> 、小生一人持不 <u>申</u> 、天地之間、身一にて候。何として官家徘徊成可申候や。思召やられ候
34	図版No. 121 釈文	時めくも、た、一時の <u>む</u> るさ	時めくも、た、一時の <u>む</u> らさ
34	図版No. 121 釈文	の <u>墓</u> に枕かはすを	の <u>夢</u> に枕かはすを
35	11行目	宗祖の徹翁義亨	大徳寺第一世徹翁義亨
42	図版No. 149	徳川家朱印状写	徳川家 <u>綱</u> 朱印状写
43	上段No. 2	沢庵、玉室、江月は江戸に召 <u>換</u> された	沢庵、玉室、江月は江戸に召 <u>喚</u> された
43	下段16行目	別離今日 <u>己</u> 忘機	別離今日 <u>已</u> 忘機
43	下段19行目	金風吹 <u>越</u> 白川波	金風吹 <u>起</u> 白川波
43	下段30行目	ミたるなど人をいさむも折 <u>々</u> に	ミたるなど人をいさむも折 <u>から</u> に
44	下段4行目	仰 <u>詫</u> 候板倉周防守折節参合候故此旨被御渡候也	御 <u>詫</u> 候板倉周防守折節参合候故此旨被御渡候也
46	上段No. 21	宗鏡寺本堂廊下の上にある同鐘の説明文として次のように記している。「和尚投渕軒に在りし一夜 夢を感じ人をして掘らしむるに はたして一鳥鐘	宗鏡寺本堂廊下の上にある同鐘の説明文として次のように記している。「和尚投渕軒に在りし一夜 夢を感じ人をして掘らしむるに はたして一鳥鐘
48	下段No. 54	急度申入候、澤庵儀其方江御預候、	<u>以上</u> 急度申入候、澤庵儀其方江御預候、
48	下段No. 55	當座、に皆々人に遣候頭巾、わたほうし、おひたひなど	當座、に皆々人に遣候 <u>、</u> 頭巾、わたほうし、おひ <u>、</u> たひなど
48	下段No. 55	はしめと <u>て</u> て、親類共之内、一人も音信とて、人なとくれ候は <u>、</u>	はしめと <u>して</u> て、親類共之内、一人も音信とて、人なとくれ候は <u>と</u>
51	下段No. 115	烏丸光広像（部分） 一絲贊	烏丸光広像（部分） 一絲贊*
51	下段No. 121	柳生宗矩宛書状 沢庵宗彭筆 一幅	柳生宗矩宛書状 沢庵宗彭筆 一 <u>巻</u>
52	上段No. 127	品川御殿での茶会で、	<u>この手紙の後半に、</u> 品川御殿での茶会で、

52	上段No. 127	雲州無事御渡被成、今程者御國ニ可有御座と存候。	雲州無事ニ御渡被成、今程者御國ニ可有御座と存候。
52	上段No. 127	大樹御氣色今程はすきと御本復、去々年 <u>の</u> 御顔色ニ被爲成、	大樹御氣色今程はすきと御本復、去々年 <u>之</u> 御顔色ニ被爲成、
52	上段No. 127	候ハ、爲御手前には延申儀珍重ニ存候。	候ハ、爲御手前には延申儀珍重ニ存候。
52	上段No. 127	入候。然共従前角色々様子共御座候間、いか、可有御座哉	入候。然共従前角色々様子共御座候間、いか、可有御座哉
52	上段No. 128	沢庵宗彭書状 一幅	沢庵宗彭書状 一幅*
52	下段No. 128	道安引被申候、盃ノうつしにて候由候、	道安引被申候盃ノうつしにて候由候、
52	下段No. 128	詮と笑申事候、乍、去炭をも	詮と笑申事候、乍去炭をも
52	下段No. 128	にて御相伴珍とて皆々御わたい	にて御相伴珍とて皆々御わらい
53	上段No. 131	沢庵宗彭書状 一幅	沢庵宗彭書状 一幅*
53	下段No. 132	堀田正盛書状 沢庵宗彭宛 一通	堀田正盛書状 沢庵宗彭宛 一通*
53	下段No. 132	二月六日 堀田加賀守 正盛 (花押) 沢庵和尚 正盛	二月六日 正盛 (花押) 堀田加賀守 沢庵和尚 正盛
54	上段No. 133	重而可有用捨候、● (与に欠)	重而可有用捨候● (与に欠)
54	下段No. 134	一、本山在宇之諸長老遷化時。必有一山之施齋。我退本寺捨身	一、本山在寺之諸長老遷化時。必有一山之施齋。我退本寺捨身
54	下段No. 134	一、我息已絶。則於夜早可送于野外。	一、我息已絶。則於夜早可送于野外。
55	上段No. 136	東海寺惣図 嘉永五年 一幅	東海寺惣図 嘉永五年 一幅*
55	上段No. 149	徳川家朱印状写 寛文五年 四代将軍徳川家綱	徳川家朱印状写 寛文五年 四代将軍徳川家綱